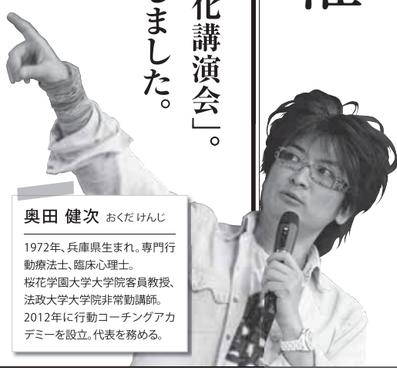
今年で50年、「高校生のための文化講演会」札幌稲雲高・札幌厚別高で開催

1966年にスタートし、今年で50周年を迎えた「高校生のための文化講演会」。去る6月22日(月)、札幌稲雲高と札幌厚別高で奥田 健次氏が講演しました。

■主催／北海道新聞社・公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会



奥田 健次 おくだ けんじ

1972年、兵庫県生まれ。専門行動療法士、臨床心理士。
桜花学園大学大学院客員教授、法政大学大学院非常勤講師。
2012年に行動コーチングアカデミーを設立。代表を務める。

「メリットの法則 高校生版」各校800人が聴講

作家、漫画家、詩人、大学教授など、さまざまな分野で活躍する著名な講師を招き、高校生を対象に全国70～80の高校で開催する「高校生のための文化講演会」。今年で50周年を迎えた同講演会が、去る6月22日(月)、札幌稲雲高校と札幌厚別高校で開催され、それぞれ約800人の生徒たちが講演に耳を傾けた。

今回のゲストは、専門行動療法士、臨床心理士であり、大学講師なども務め、日本で初めての行動分析学を用いた幼稚園を長野県に申請中の奥田健次氏。自閉症や不登校、発達障害などの問題を改善するエキスパートである。講演タイトルは『「分かる」から「使える」心理学へ「メリットの法則」高校生版』。講演では奥田健次氏の著作「メリットの法則　行動分析学・実践編」(集英社新書)から高校生を対象にした話が聞かれた。

行動分析学を駆使し、問題行動を改善

「私は外見が少し変わっていて大学の先生に見られたことがありませんが、臨床を専門にしている研究者です」と冒頭から高校生の注目を集める奥田氏。実際に家庭や学校へ行き、暴れている子供、勉強がうまくできない子供、言葉が話せない子供と出会い、「なぜその人は○○をしてしまうのか」という問題を、行動分析学を駆使して「人がとる行動には必ず理由がある」という視点から問題行動を改善していく。

魔法ではなく技術、練習することで可能になる

奥田氏の行動分析学を駆使した問題解決は時には魔法のようだと評される。それまで全く変えることができなかった不登校や暴力などの問題を劇的に改善。魔法ではなく技術なので、練習を繰り返すと学校の先生でもできるようになると奥田氏はいう。

実例として授業中、教室で嘔吐(おうと)を繰り返してしまう小学生の、嘔吐することにより得られるメリット(クラスメートは心配し、担任教師は献身的に保健室に連れて行くという本人への注目)をなくし、クラスメートと担任教師が本人に注目することなく、何事もなかったように嘔吐物を片付けるだけの対応に変え、授業中の発表・質問などの望ましい行動に注目・賞賛することで長く続いていた授業中の嘔吐をなくしたことなどが紹介された。

日本で、あるいは海外でのさまざまな事例をスライドや動画で見せながら時には笑いを交えて講演する奥田氏。最後に奥田氏より、行動分析学を生かした進路についての紹介があり、「メリットの法則 高校生版」の話に興味を持った生徒に、進路の道筋とヒントを与えて講演は終了した。

『文化講演会』を聞いて

北海道札幌厚別高等学校 生徒会長
松本 光生

「行動を、増やすことができる、減らすこともできる。」今回の講演を聞いて深く心に残った言葉です。

高校生にとって、自分や相手をコントロールするのは必要不可欠なことではないでしょうか。人間関係や勉学、部活動など多くの悩みや不安は、自分の行動を変え、相手の行動を変えることで解決が可能です。講演で示された『メリットの法則』は、その解決法としてかなり有効かもしれません。全ての行動をその先にあるメリットを見据えて判断していく。これは、自分または相手の行動を俯瞰(ふかん)的に捉える意味がある、と思いました。「分かる」から「使える」心理学とは何か、がよく分かる講演でした。保育・看護・福祉等の進路を考えている生徒も少なくない中で、多くの示唆を与えていただいたと思います。お忙しい中、厚別高校のために講演して下さった奥田健次先生、本当にありがとうございました。

「分かる」から「使える」心理学へ『メリットの法則』高校生版を聞いて

北海道札幌稲雲高等学校 生徒会長
伊藤 七星

私は今回、奥田先生の講演を聞いて、「障害とは特別なことではなく、誰もが持つ個性であり、むしろ普通の人なんていない」という言葉に一番心を強く打たれました。これまでの私は、障害がある事を欠点として捉え、特別視してしまっていましたが、奥田先生の考え方に触れたことで、人にはさまざまな凸凹があってこそ一人の人間として成り立っているのだとあらためて実感できました。行動分析学の「メリットの法則」については、行動の先にメリットがあるから動くという考え方が新鮮で面白いと思いました。私は、心理学という学問は、人間の心の中を読むものだと思っていましたが、違う角度から心理学のことを知ることができて、興味が湧いてきました。私の18年間の考え方をガラリと変えた奥田先生に、感謝の気持ちを伝えたいです。本日は本当にありがとうございました。

第一回 開催校から

時代を代表する文化人の話が高校生の心の糧に

北海高等学校
校長
山崎 省一

「文化」や「教養」という言葉が、輝かしい響きをもって語られていた時代があった。「高校生のための文化講演会」がスタートしたのは、まさにそのような時代であったと思う。昭和の文学を代表する作家の一人であった伊藤整氏が、「近代文学の問題」と題して本校で講演したのは1967年のことであった。講演記録を読むと、小説の読み方や日本の小説の問題点などが、高度な内容であるにもかかわらず分りやすく述べられている。本校では2012年にも島田雅彦氏の講演が行われている。それぞれの時代を代表する文化人の話を直接聞くことができる機会は得難く、講演を聞いた生徒にとってはかけがえのない経験になったことと思う。学校としても、そのような場を設けていただいたことに心から感謝したい。現在の時代状況の中で、今一度、「文化」や「教養」の持つ意味を問い直す必要性は高まっているといえよう。高校生の心の糧となるこの企画が、さらに持続・発展することを願っている。

「高校生のための文化講演会」概要

高校時代は成長過程の中でも最も重要な時期として占められております。教科学習はもちろんのこと、課外活動や対外交流などを通じて体験する、さまざまな出会いや出来事は全て、人格陶冶(とうや)の糧となって、それぞれに育成を助けます。

「高校生のための文化講演会」は、作家、評論家、大学教授など、さまざまな分野で著名な方々による講演を聞くことにより、人生の岐路にさしかかる高校生にとって、思索を深める契機となり、将来への指針決定の一助になればと願い企画されたものです。

主催は、各新聞社と公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会です。後援は、文部科学省、都道府県教育委員会、集英社で、全国各地で実施しております。

1966年(昭和41)年に開始以来、本年で第50回目となります。

この間実施した高校は、延べ3756校、聴講生徒数は3333万4235人に達します。

また、本講演会を記念して学校に寄贈される図書は、読書の喜びを分かち合うために、不断の活用を念願するものであります。

1967年	札幌大谷女子高等学校	伊藤 整
	札幌北高等学校	
	札幌静修高等学校	
	北海高等学校	
1968年	小樽商業高等学校	野田宇太郎
	小樽潮陵高等学校	
	小樽双葉女子学園高等学校	
1969年	小樽桜陽高等学校	村野 四郎
	昭和龍谷女子	
	函館東高等学校	
1971年	池田高等学校	和歌森太郎
	帯広大谷高等学校	
	帯広柏葉高等学校	
1972年	旭川南高等学校	古山高麗雄
	札幌女子高等学校	
	三愛女子高等学校	吉村 昭
	大谷室蘭高等学校	
	室蘭カトリック女子高等学校	
1973年	遺愛女子高等学校	奥野 健男
	札幌第一高等学校	
	札幌商業高等学校	
1974年	岩見沢緑陵高等学校	伊藤 信吉
	苫小牧東高等学校	
	美唄東高等学校	
1975年	栗山高等学校	村松 定孝
	東海大学付属第四高等学校	
	藤女子高等学校	
1976年	札幌北斗高等学校	笠原 一男
	札幌清田高等学校	
	札幌創成高等学校	
1977年	江別高等学校	小田切 進
	札幌西高等学校	
	千歳北陽高等学校	
1978年	木古内高等学校	藤原 英司
	函館西高等学校	
	遺愛女子高等学校	
1979年	鹿追高等学校	加賀 乙彦
	音更高等学校	
	帯広北高等学校	
	旭川東高等学校	井上 靖
1980年	小樽工業高等学校	福田 宏年
	小樽水産高等学校	
	北照高等学校	
1981年	釧路北高等学校	吉増 剛造
	釧路東高等学校	
	札幌星園高等学校	
1982年	札幌手稲高等学校	小川 国夫
	三愛女子高等学校	
	札幌丘珠高等学校	
1983年	札幌南陵高等学校	三木 卓
	駒澤大学附属苫小牧高等学校	
	苫小牧中央高等学校	
1984年	北見柏陽高等学校	小川 国夫
	北見藤女子高等学校	
	網走向陽高等学校	
1985年	室蘭清水丘高等学校	宮 次男
	伊達緑丘高等学校	
	登別青葉高等学校	
1986年	函館昭和女子学園高等学校	久美 沙織
	函館女子商業高等学校	
	函館大妻高等学校	
1987年	帯広南商業高等学校	立松 和平
	池田高等学校	
	芽室高等学校	
1988年	北見工業高等学校	長谷川龍生
	北見柏陽高等学校	
	駒澤大学附属苫小牧高等学校	松原 哲明
	野幌高等学校	
	三笠高等学校	
1989年	旭川藤女子高等学校	浜 美枝
	旭川北都商業高等学校	
	旭川女子高等商業学校	
1990年	北照高等学校	笠谷 幸生
	小樽工業高等学校	
	余市高等学校	
	帯広女子短大附属	佐江 衆一
1991年	北見商業高等学校	荻野 真
	北見緑陵高等学校	
	遠軽郁凌高等学校	
1992年	函館北高等学校	日向章一郎
	函館昭和女子学園高等学校	
1993年	恵庭南高等学校	倉本 由布
	札幌平岡高等学校	
	栗山高等学校	
1994年	駒澤大学附属苫小牧高等学校	吉村 作治
	苫小牧西高等学校	
	苫小牧総合経済高等学校	
1995年	大樹高等学校	鳴海 章
	白樺学園高等学校	
	帯広柏葉高等学校	
1996年	旭川凌雲高等学校	村山 由佳
	東川高等学校	
	旭川実業高等学校	
1997年	函館中部高等学校	宮内 勝典
	七飯高等学校	
	函館東高等学校	
1998年	釧路北陽高等学校	松原 哲明
	釧路緑ヶ岡高等学校	
	釧路西高等学校	
1999年	芽室高等学校	松本 侑子
	帯広三条高等学校	
	白樺学園高等学校	
2000年	札幌平岸高等学校	三木 卓
	札幌東高等学校	
2001年	函館西高等学校	大岡 玲
	函館大妻高等学校	
	函館東高等学校	
2002年	釧路江南高等学校	池上 彰
	釧路工業高等学校	
2003年	旭川東栄高等学校	村山 由佳
	旭川竜谷高等学校	
2004年	札幌南高等学校	島田 雅彦
	札幌大谷高等学校	
2005年	小樽桜陽高等学校	吉増 剛造
	双葉高等学校	
2006年	伊達緑丘高等学校	三宮麻由子
	海星学院高等学校	
2007年	札幌新川高等学校	阿川佐和子
	札幌西高等学校	
2008年	北見工業高等学校	奥泉 光
	北見商業高等学校	
2009年	音更高等学校	植島 啓司
	士幌高等学校	
2010年	駒澤大学附属苫小牧高等学校	藤本ひとみ
	苫小牧総合経済高等学校	
2011年	遺愛女子高等学校	川上 健一
	函館大妻高等学校	
2012年	北海高等学校	島田 雅彦
	立命館慶祥高等学校	
2013年	北照高等学校	星草 紀子
	双葉高等学校	
2014年	旭川大学高等学校	東 直子
	旭川明成高等学校	

企画制作/北海道新聞社広告局